

# 現代北欧児童文学における「死」の語り

講師：<sup>たなべ うた</sup>田辺 欧先生 大阪大学言語文化研究科教授

北欧は19世紀に児童文学が文学ジャンルとして確立して以来、数多くの優れた児童文学を世界に送り出してきました。アンデルセンの時代、19世紀ロマン主義においては「子どもは永遠不滅」であり、「子どもに死を語ることはタブー」とされてきましたが、それを最初に打ち破ったのがアンデルセンです。近年は北欧において「現代において子どもに死を語ることの社会的意義をめぐる」議論がディシプリンの領域を越えて活発に展開されています。今回はデンマーク、スウェーデンにおいて「死」をテーマとした児童書、絵本を紹介すると同時に、子どもに「死」を語ることをめぐる社会的取り組みも紹介しながら、皆さんと共に子どもと「死の受容」の問題を考えてみたいと思います。

— 田辺 欧先生からの講座への呼びかけ —

今年の公開講座では、昨年に続き、子どもに「死」を語ることをテーマとして取り上げます。アンデルセンをはじめとして、北欧の児童文学からこのテーマを説き起こしてくださる講師を与えられました。共に聴き、学びましょう。皆さんの出席を心よりお待ちしております。

日時：2012年9月14日（金）18：30～20：30

会場：関西学院西宮聖和キャンパス山川記念館2階メアリー・ランバスチャペル

（入場無料／要申込み）

## ☆田辺 欧（たなべ・うた）先生プロフィール

神戸女学院大学、大阪外国語大学卒業。コペンハーゲン大学大学院・北欧語研究科・第一課程修了。1992年より大阪外国語大学外国語学部・デンマーク語／スウェーデン語学科に就任。2007年大阪大学と統合後、世界言語研究センター所属を経て、現在言語文化研究科教授。専門は、近・現代北欧文学。著書：『デンマークを知るための68章』（共著 明石書店）、『デンマークの歴史・文化・社会』（共著 創元社）、『図説児童文学翻訳大事典』第4巻（共著 大空社）、『北欧社会の基層と構造3 北欧のアイデンティティ』（共訳 東海大学出版会）、他著・訳書など。

\*名前・連絡先をご記入の上、FaxまたはE-Mailで9月7日（金）までにお申込み下さい。

主催：聖和短期大学 キリスト教教育・保育研究センター(RCCEC)

〒662-0827 西宮市岡田山7-54 Tel/Fax0798-52-4702 [rccecsewa@yahoo.co.jp](mailto:rccecsewa@yahoo.co.jp) (担当：吉新<sup>よしあら</sup>)

